



## 或るヨーロッパ人から見た シンガポール

イギリス人である私が、或る法律事務所の特許弁理士としての職に就くためシンガポールに初めて到着したのは2010年6月。自分の人生はいったい何処へ向かっているのだろうかと思いつつ到着でした。



出典：[https://www.linkedin.com/posts/peterdsleman\\_ipwatchdog-launches-weekly-comic-strip-activity-6687396348670615553-zUry](https://www.linkedin.com/posts/peterdsleman_ipwatchdog-launches-weekly-comic-strip-activity-6687396348670615553-zUry)

以下徒然なるままに、私が経験した、私にとってのシンガポールを書き連ねてみようと思います。

シンガポールに到着後、最初にがっかりしたのは住居費の高さと、そのコストに見合わない住環境レベルの低さでした。しかし、住めば都。しばらくでそれには慣れました。

信じられないほど効率的で安価な公共交通機関をすぐに体験しましたが、なぜかシンガポール人はそれについて不平を言い続けていました。そのときも今も思っていることですが、彼らはロンドンの地下鉄を体験するべきです。そうすれば、本当に不平を言うべき対象を発見できるでしょう！

市場で巨大な緑色の塊を見かけて驚いたことを覚えています。それがジャックフルーツ



であると後で知りました。ジャックフルーツは今では私のお気に入りの果物です。その他にも、私がこれまで見たことのない南国の果実が果物屋にたくさん並んでいました。初めて本物のココナッツ（乾物や缶詰ではない、新鮮なココナッツ）を食べたときには興奮しました。この興奮を職場の同僚に話したとき、彼らが私を変人のように見たことを思い出します。

「シングリッシュ (Singlish)」(シンガポール訛りの英語)にはすぐに慣れました。また、シンガポール人が話のセンテンスの最後に付け加える「ラ (Lah)」にも次第に慣れました。

ずいぶん後に知ったのですが、シンガポールの国語はマレー語だそうです。これは奇妙な感じですが、なぜなら、皆が英語 (シングリッシュ) か北京語を話していて、誰もマレー語を使っている人はいないからです。

シンガポールには国民兵役 (National Service) が存在すること、そしてそれが社会にうまく統合されていることを知りました。例えば、事務所の同僚 (シンガポール人) に予

備役のサイクルがやってきても、それが彼らの年次休暇の権利に影響しないようになっているのです。

私が同僚に国慶行進 (National Day Parade) をどこで見るのが一番良いか尋ねると、返ってきた答えは皆「テレビで」ばかりでがっかりしましたのを覚えています。しかし、実際にテレビで観てみると「最高の席」から“観る”ことができ、式典後のひどい混雑を気にしなくてよいので、それは正しいアドバイスでした。

シンガポールの長時間労働にも次第に慣れました。最初は私の仕事だけが長時間労働なのだと思っていました。私は、朝のうちに米国の提携先からの連絡に対応しなければなりません。そして午後になると、今度はヨーロッパが目覚まし、ヨーロッパからの連絡に対応しなければなりません。このため私は、夕食後にもオフィスに戻って仕事をし、さらにジムに行き、そこから戻って仕事を仕上げてから帰宅するというのがルーティンになりました。このような長時間労働が、シンガポールの大多数の人の仕事生活だと分かるまでに時間がかかりました——平均出生率が約1.1なものも不思議ではありませんね。

月日が流れ、やがて素晴らしいシンガポール人女性と出会い、彼女が私の妻になってくれました。結婚式でお祝いに現金を渡すやり方は贈り物よりもずっと賢いやり方だと思います。

茶礼の際には赤い封筒でさらにお金をいただきました。しかし後日気づいたのですが、これから毎年、妻が他人に渡す赤い封筒にお金を入れる役目を永久に負うことになるという意味がそこにはあったのです。

その後、永住権を取得しました。ただしそれは永久的なものではなく、入国管理庁の裁量で五年ごとに更新されるのです。それを「永住権」と呼ぶべきではないように思います。

現在、HDB (公営分譲住宅) を購入し、いくつかの転職を経て、私の仕事と生活のバランスは改善されてきました。この素晴らしく安全な国がこれから提供してくれるものを楽しみにしています。

最後に、我が家のペットの猫とチャボ (矮鶏) を紹介します。写真は、昼食後に休憩中の猫たちと、一緒に仲良く水浴びをする親子のチャボです。カワイイです!



### 著者紹介



**André Chissel**  
(アンドレ チッセル)

オーストラリアおよびニュージーランドの特許・商標弁理士。

シンガポール、オーストラリア、米国、英国などで30年以上の国際的実務経験を持つ。

サウサンプトン大学で化学の優等学位を取得し、ダラム大学で博士号を取得。さらにロンドン大学にて知的財産法関連の修士号および資格を取得している。現在はGIP ASEAN (シンガポール) に所属し、機械分野の特許明細書作成や化学特許の権利化を専門とするほか、特許戦略や知財ポートフォリオ管理についても助言を行っている。

【参考】 [www.unitedgips.com](http://www.unitedgips.com)

